



# さとやま

## 6月に見られるいきもの



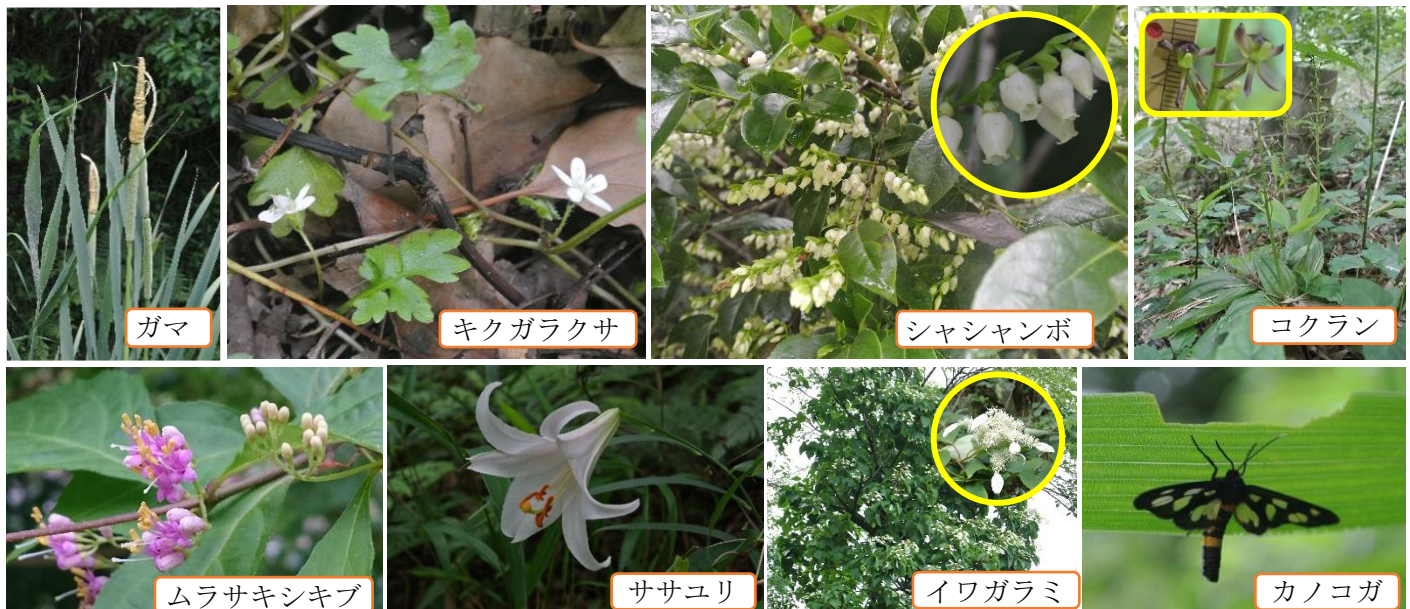
温暖化による異常気象のためか、今年は早くも5月半ば頃から梅雨入りしました。田には雨も必要ですが稲の成長には日照も大切です。梅雨が早く明けてくれることを祈ります。

そんな田んぼの近くでは、**ガマ**の花がみられます。上の茶色い部分が雄花の集まり、下の緑の部分が雌花の集まりです。絶滅が危惧されている**キクガラクサ**が、なぜかセンター裏のエアコンの室外機付近だけで花をつけます。その裏の雑木林や、田んぼエリアの上の道では、釣り鐘型の**シャシャンボ**の花が見られます。

和蘭の**コ克蘭**は、トンボの里から万灯山エリアで多数咲いています。秋に紫の実がなる**ムラサキシキブ**の花もあります。野鳥の森では、**ササユリ**の花を見つけることができます。見上げると、木に絡みついて咲くアジサイに似た**イワガラミ**の花があちこちで目に入ります。

藪の中では、ハチに擬態していると言われる蛾の仲間、**カノコガ**をよく見かけます。

梅雨の晴れ間、こんな生き物を探して里を散策してみませんか。





# 里の生き物紹介 **ハナショウブと仲間たち**

6月、里の菖蒲池では、色とりどりのハナショウブが咲きます



ハナショウブは、アヤメ科に分類される多年草で、水辺や湿原、湿った草原に自生している、**ノハナショウブ**の園芸品種です。江戸時代から栽培されていて、現在は2000品種程あると言われています。

端午の節句の菖蒲湯に使う**ショウブ**は、以前はサトイモ科に分類されていましたが、今はショウブ科とされています。いずれにしても、ハナショウブとは全く別の種類です。花は葉に隠れた花茎に棒状に集まってつき、色も黄緑色で目立ちません。里では、近縁の**セキショウ**が、ピオトープ下の池へ流れ込む水路に生えていて、同じような花が咲きます。

ショウブと同じように水辺に生え、葉が伏っていて、美しい花が咲くことからハナショウブの名がついたと言われています。





ところで、この池では5月にもハナショウブとよく似た花が見られます



これは、同じアヤメ科のカキツバタとキショウブです。

カキツバタは愛知県の県花です。知立市八橋が、在原業平が伊勢物語の中でカキツバタの歌を詠んだ場所とされているためです。

キショウブは、西アジアからヨーロッパ原産の植物で、明治時代から日本で栽培されています。繁殖力が強いので、生態系に与える影響や侵略性が高いとして、「要注意外来生物」とされています。

「いずれ菖蒲（あやめ）か杜若（かきつばた）」という言葉があります。江戸時代にはハナショウブのことをアヤメとも呼び区別していなかったようで、ますます分かりませんね。見分けるには、花弁の根元に注目します。ハナショウブの花色は、白から濃い紫色までありますが、根元に必ず細い黄色い部分があります。カキツバタは白色の筋、キショウブは網目の模様があります。また、ハナショウブには黄色はありません。里では見かけませんが、網目模様はアヤメにも見られます。アヤメは、湿地に生えないことでも見分けられます。



5月から6月、ネイチャーセンターを中心にこんな小さな花が一面に咲いています

やはりアヤメ科のニワゼキショウです。芝生や草地などに群生します。北アメリカ原産で、明治時代に日本に入ってきたものです。近縁のセッカニワゼキショウもあるようで、様々な花色が見られます。





## 6月の行事予定

6日(日)	シロツメグサで花冠づくり	20名	AM9:30~11:30	河江喜久代
-------	--------------	-----	--------------	-------

◎内容 ~ 里山を散策し、昔よく遊んだ草花を使って花冠を作り遊びます。

20日(日)	やさしい苔玉教室	20名	AM9:30~11:30	長谷部弥生
--------	----------	-----	--------------	-------

◎内容 ~ 土を練って形を作り、好きな植物を植えてから糸を巻いて作ります。

## 7月の行事予定

25日(日)	梅雨時のきのこを探そう	20名	AM9:30~11:30	石川まゆみ
--------	-------------	-----	--------------	-------

◎内容 ~ 梅雨時の里山に多く生えるきのこを散策しながら見つけ、その性質を学びます。

- ◆参加受付は、各講座3週間前の午前8時30分から先着順で来園、または電話にて受付します。また、お申込みは本人、もしくはそのご家族までとします。
- ◆参加申込者は傷害保険に加入のため、小学生以上の方とします。なお、小さいお子さまをお連れいただいても構いませんが「見学报い」とし、傷害保険の加入はありません。
- ◆天候や少数(6名以下/1講座)、コロナ禍などにより「講座の中止・延期」、または「受講内容の変更する場合があります」。
- ◆原則、参加費は無料ですが材料費などは実費を申し受けます。
- ◆詳細な講座の内容などは、直接ネイチャーセンターにご確認ください。

## 編集後記



毎年5月行事に「棚田で稲作しよう」で田植えを行っていましたが、コロナ禍による緊急事態宣言を踏まえ、残念ながら2年続けて「中止」となってしまいました。今年も職員だけで棚田に稲の苗を植えました。まだ苗が小さく水面ばかり目立ちますが、秋の収穫期までには「すくすく」と実り多い稲穂に育ってほしいものです。

そして一日も早くコロナが終息し、昔の里山に戻った、にぎやかな「稲刈り」や「脱穀」の行事ができることを祈ってやみません。

## 西尾いきものふれあいの里

◆ところ 〒445-0031 愛知県西尾市家武町小草3番地 Tel・Fax 0563-52-0266

◆休日 毎週月曜日・祝日の翌日・年末年始 [12/28~1/4] ◆発行 西尾市環境部環境保全課